

IDL 8.9

リリースノート

Note

最新の情報に関しては、下記のリンクを参照してください。

<https://www.nv5geospatialsoftware.com/Software-Technology/IDL>

このリリースノートは次の項目に分かれています。

- IDL8.9 のサポートプラットフォーム
- IDL8.9 の新機能
- IDL8.9 の下位互換性の問題
- IDL8.9 で修正された問題

IDL8.9 のサポートプラットフォーム

IDL8.9 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。ソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはネットワークカード (NIC もしくは Ethernet) を介した、インターネット接続が必要となります。

プラットフォーム	ハードウェア	オペレーティングシステム	サポートバージョン ^a
Windows	Intel / AMD 64-bit	Windows	10, 11
Macintosh	Intel 64-bit / M1 ^b	OS X	11.5, 12 ^c
UNIX	Intel / AMD 64-bit	Linux	Kernel 4.18.0 glibc 2.28

a: サポートバージョン中の記載は、ENVI / IDL の構築・テスト環境を示しています。弊社による公式のサポートは、表に記載されたインストール環境に対して適用されます。

b: Mac M1 には Rosetta 2 emulator が必要です。

c: Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。

XQuartz2.8.5にて動作確認されています。

推奨環境：

本製品を快適に利用するために 1GB 以上のメモリを持つグラフィックボードの搭載と、バージョン 2.0 以降の OpenGL のマシン環境を推奨します。また、搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。ヘルプシステムは HTML5 対応ブラウザを必要とします。

また、現行の ENVI の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	4GB
メモリ	8GB
CPU	最小 2Core 推奨 4Core 以上

ライセンスサーバのサポートプラットフォーム

本製品をフローティングのライセンスのサーバー機として使用する場合には、ライセンスサーバ (License Server) を使用します。そのライセンスサーバのサポートプラットフォームを以下の表に示します。なお、MacOS はフローティングサーバーとしては動作いたしません。

ライセンスサーバをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、フローティングライセンスに関しても、ライセンス認証にはネットワークカード (NIC もしくは Ethernet) を介した、インターネット接続が必要となります。

プラットフォーム	CPU アーキテクチャ	サポートバージョン
Windows 64bit	x86-64	Windows Server 2016, 2018 Windows 10, 11
Linux	x86-64	CentOS 7 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8.4 Ubuntu 16, 18, 21.10 Debian 11

また、現行の License Server 4.1 の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	500MB
メモリ	4GB
CPU	2GHz – 2 Cores

その他：

ライセンスサーバとクライアント間の通信はデフォルトの設定では TCP 4080 (HTTP) と 40443 (HTTPS) を使用しますので、ファイアウォールなどで通信許可を設定してください。

搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。各製品の Help は HTML5 対応ブラウザを必要とします。

IDL8.9 の新機能

IDL8.9 の新機能詳細は IDL ヘルプの「What's New」のページを参照ください

IDL8.9 の下位互換性の問題

IDL8.8.2 以降の IDL では、Java17 を使用します。以前のバージョンの IDL プログラムに Java8 のコードがあった場合、Java17 を使用して再コンパイルが必要になる可能性があります。

IDL8.9 で修正された問題

ID	解 説
IDL-69692	JULDAY と CALDAT では僅かに差がある結果を返していた。MODIFIED キーワードを追加しました。
IDL-69844	TEXT グラフィックは、多数の入力をレンダリングするのに非常に長い時間がかかっていた。
IDL-69902	FILE_GUNZIP は、BUFFER キーワードを使用した変数への 4GB を超えるデータの読み込みに失敗していた。
IDL-69913	!18N:FILE_ZIP は拡張 ASCII 文字を正しく処理できなかった。
IDL-69970	FILE_UNZIP は Sentinel-2 データでエラーが発生していた。
IDL-70263	Mac ではアクティブ化の権限が原因で MAKE_RT が失敗していた。
IDL-70598	FILE_ZIP はフォルダーを正しく圧縮できなかった。

IDL-70683	IDL8.6以降のライセンスモードはJava->IDL Export Bridgeをサポートしていなかった。
IDL-70774	PRINT、PRINTF、STRING: FORMAT キーワードではメモリリークがあった。
IDL-70804	WIDGET_PROPERTY SHEET は、Ubuntu18以降および RHEL/Centos7.9以降ではIDLでセグメンテーション違反を起こしていた。
IDL-70805	FILE_GUNZIP を使用して.tgz ファイルを解凍すると、サイズが急速に増大していた。
IDL-70806	IDL の FILE_UNTAR ルーチンはサブディレクトリをサポートしていなかった。
IDL-70842	.edit Editor タブは別のプログラムが停止しているとき、フォーカスが予期しない動作をしていた。
IDL-70865	IDLDE と IDL コマンドラインによって返される画面サイズと解像度が同じではなかった。
IDL-70866	IDL インタープリタがリスト/ハッシュ呼び出し後に間違った場所で停止していた。
IDL-70872	WIDGET_SLIDER のデフォルトのスクロールホイールアクションは、Linux では3ユニットでしたが、以前は1単位だった。
IDL-70873	macOS Monterey 上のアプリから MAKE_RT アプリケーションを実行できなかった。
IDL-70902	ブレークポイントで停止中に IDL Workbench のコンソールで何かを実行すると、エディターがブレークポイントにジャンプして戻っていた。
IDL-70903	最大 700 メガピクセルを書き込むことが出来なくなるため、WRITE_PNG は 32 ビットに制限すべきではない。
IDL-70904	ハッシュに含まれる配列に正しく添え字を付けることができなかった。
IDL-70908	MacOS のファイアウォールが有効になっている場合、ユーザーは起動するたびに IDLDE を「許可」する必要があるがあった。
IDL-70911	COM->IDL エクスポートブリッジは IDL 8.6 以降のライセンスモードをサポートしていなかった。
IDL-70912	浮動小数点を使用した Implied print は無効 JSON ファイルが生成されていました。
IDL-70918	IDL 8.8.2 では.RUN が正しく動作しなかった。
IDL-70930	HIST_EQUAL はスケール範囲の端の値に対して誤った結果を返していた。
IDL-70938	NULL 文字列を含む構造を持つ LISTS および SAV ファイルで IDL がクラッシュしていた。